

地域協働による買い物支援モデル事業について

(平成25年度活動実績と今後の方向)

1 平成25年度実績

(1) 高齢者の買い物環境に係る基礎調査の結果公表【平成25年8月】

- ◇ 買い物環境に係る校区別分析（地域カルテ）の作成
- ◇ 買い物環境マップの作成
- ◇ 買い物支援の取り組みに関するヒアリング調査の実施

(2) ワークショップ、実態調査の実施【平成25年8月～】

概ね小学校区を単位として、各区にモデル地区（各区1か所、全7か所）を選定、高齢者の買い物環境に関する実態調査（アンケート）や住民参加のワークショップを実施。

(3) モデル地区への「まちづくりコーディネーター」の派遣

モデル地区における買い物支援の地域活動計画づくりを支援するため、まちづくりコーディネーター（1名）を地域に派遣。

(4) 買い物支援に関する意見交換会の開催【平成25年11月】

買い物支援に携わる民間事業者、地域住民代表、行政など102名が参加。事例発表（7団体）と意見交換を実施。

(5) 買い物支援ネットワーク会議の開催【平成26年2月】

民間事業者と地域をつなぐ試みとして、新たな会議を立ち上げ。民間事業者、地域住民代表、保健福祉関係者（介護・障害）など149名が参加。

事例発表（3団体）、意見交換、展示・交流（8団体が出展）を実施。

《参考資料》

- ・ 買い物支援ネットワーク会議（当日配布資料）
- ・ 買い物支援ネットワーク シンボルマークの配布について（案）

2 今後の方向・案（平成26年度～）

→ これまでの取り組みの成果を踏まえ、買い物支援を必要とする地域と、意欲ある事業者をつなぐ体制の強化を図る。

（1）買い物支援に関する情報発信【平成26年春～】

シンボルマークの交付、印刷物の作成、ホームページの活用など、買い物支援について市民にわかりやすく情報発信する仕組みづくりを進める。

（2）モデル地区における取り組み【平成26年春～】

各区のモデル地区において、ワークショップの成果を受けて、地域協働による買い物支援活動の立ち上げに取り組む。また、これらの取り組みを支援するため、引き続き、まちづくりコーディネーターの派遣を検討する。

【参考】買い物支援に関する主な意見

(買い物支援に関する意見交換会、買い物応援ネットワーク会議)

1 民間事業者

- 経営は厳しいが、回覧板でのPRなど、地域の応援が大変有難い。
- 宅配サービスを通して、高齢者の見守りや支援につながった。
- 移動販売が高齢者のコミュニケーションの場になっている。
- 商売である以上、利益があがらないと、続けていくことは難しい。
- 移動販売の場所として、公共施設の駐車場を活用できないか。
- 私たちのサービスを、もっと地域の方に知ってほしい。
- ネット販売だけでなく、高齢者とのコミュニケーションに参加したい。

2 地域住民・各団体

- 高齢者が外出するきっかけになり、住民同士の交流が深まった。
- 地域活動のノウハウを、他の地域にも伝えたい。
- 活動を長く続けていくには、担い手の養成など、住民の協力が必要。
- 買い物支援について、住民の自助、互助だけでは限界もある。
- いろいろな団体を含めて、地域が一枚岩になるには時間がかかる。
- 事業者の方も、まず地域と話し合いをして計画をつくと良いのではないか。
- 大学生と一緒に商店街で認知症の人の買い物体験に取り組み、とても喜ばれた。
- 買い物支援の取り組みをPRするノボリを作ってほしい。

3 参加者アンケート

- 多くの団体や自治会が、買い物支援に取り組んでいることを知って感動した。
- 買い物支援の必要な地域が想像以上に多いことを知った。
- 今は買い物の困難な地域ではないが、10年先を考え、地域で検討したい。
- 行政には、事業者と地域を「つなぐ」仕組みを検討してほしい。
- こうした情報を地域に発信することも検討してほしい。
- 買い物支援を続けていくことの難しさを知ることができた。
- 買い物支援は、どの方法にしても、場所の確保が重要である。
- ボランティアだけでは長続きしない。継続のためには行政の支援も必要。